

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第5回フォーラム研究会
議事録

日時：平成26年6月24日（火） 13：00～16：00

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、大石（PONPO）、釜山（元気ネット）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、第1期フォーラム参加者

配布資料

- F5-0. 議事次第
- F5-1. 第4回フォーラム研究会議事録案
- F5-2. 第2回フォーラム反省会メモ
- F5-3. 第2回フォーラムに関するアンケート集計結果（主に自由記述）
- F5-4. 第3回フォーラムスケジュール表（運営者版）
- F5-5. 第3回フォーラムスケジュール表（配布資料版）
- F5-6. 第2回フォーラム模造紙まとめ
- F5-7. ブレーンストーミングの進め方
- F5-8. グループワークの進め方
- F5-9. 第3回フォーラムに関するアンケート
- F5-10. 第4回フォーラム開催のお知らせ
- F5-11. 第4回フォーラムへの宿題
- F5-12. 第3回フォーラムへの宿題補足
- F5-13. 模造紙の使い方

議題

- 0. 前回議事録確認
- 1. 第2回フォーラムの振り返り
- 2. 第3回フォーラムについて
- 3. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 前回議事録確認（配布資料 F5-1）

木村氏より、資料 F5-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

1. 第2回フォーラムの振り返り（配布資料 F5-2、F5-3、F5-6）

各自が第2回フォーラムに関する資料（F5-2、F5-3、F5-6）に目を通した後、第2回フォーラムの振り返りを行った。主な意見を以下に示す。

【運営について】

- ・ 模造紙をあらかじめ準備したため、落ち着いてグループワークの進行ができた。
- ・ 「何を発表するかをレジメに示してほしい」という意見があるので、記載し、説明すべきではないか。
- ・ 班の中で議論が分断している時間があった。グループ全員が1つの話題について話し合うように心がけるべき。
- ・ 限られた時間の中で、複数のタスクがある場合（例えば2つの質問に答える場合）、1つのタスクをきちんとまとめることを重視すべきか、まとめは多少甘くなっても複数のタスクを全て均等の時間で行うべきか、ジレンマがある。
→参加者には「しっかりまとめなければ」という気持ち強い方が多いのかもしれない。運営上は、必ずしもまとめ切らなくても構わないと考えている。ただし、研究代表者がそれを明言すると誘導につながるので、サブファシリテーターからさりげなく伝えてほしい。

【参加者について】

- ・ 話し合いはスムーズに進んでいたように思える。お互いの出方が分かったからか。
- ・ 相手の話を遮って話し始めてしまう参加者が見られた。
→コミュニケーションのルールを再度しっかり説明すべき。
- ・ 「無関心な人をどうしていくべきか」という意見が、複数の専門家から挙げられていた。
→原子力と関係のないテーマに移ってほしいと思う。そのほうがお互いに気づきが多いのではないか。
→第5回のテーマは、場合によっては、第1～4回の流れに応じて、運営側で設定してもいいかもしれない。
- ・ （第1回でもそう感じたが）昨年度に比べると、市民参加者の意見の広がりが少ない。
- ・ 参加者の意見を見て、「専門用語」が壁になっているのではないかと感じた。
- ・ まだ「知識を得ること」にウェイトを置いている参加者が多い。「お互いを理解する」

ことにウェイトを置くようになってほしいと思う。

- ・ 女性の専門家には、専門家としての側面と、家庭人としての側面の両方を持っている方がいる。女性の専門家の人数を増やせば、男性の専門家と女性の専門家がお互いの違いに気づく機会が増えるのではないか。

2. 第3回フォーラムについて（配布資料 F5-4、F5-5、F5-7～F5-13）

木村氏より、資料 F5-4 に基づき、第3回フォーラムのプログラム案が紹介された。

続いて、木村氏より、F5-8、F5-12、F5-13 に基づき、第3回フォーラムのグループワークの進め方の案が紹介された。進め方の大枠は、木村氏の案に基づくことになった。その後、細部にわたり議論が行われた。決定事項を以下に示す。

【全体への発表とグループワーク 1】（45分+15分）

- ・ 参加者には、従来の回と同様に、最初から3グループに分かれて座ってもらう。なお、専門家は会場前方（研究代表者のそば）で立って発表する。
- ・ 発表の順番はくじで決める。発表順は、A班→B班→C班→A班など、同じ班に偏らないように留意する。（発表に対する意見を模造紙に貼る時間を確保するため：後述）
- ・ 専門家の発表時間の厳守を心がける（3分で終了）。
- ・ 専門家の発表後、発表者以外の17人が発表に対する意見を付箋に記入する。それらの意見は各グループのサブファシリテーターが取りまとめ、発表者のいるグループのサブファシリテーターに渡す（約1分）。これを専門家9人分繰り返す。
- ・ 発表に対する意見は、サブファシリテーターが模造紙に貼る。この作業は、次の専門家の発表の間に行うが、参加者の気を散らさないように、ホワイトボードの裏面を用いて静かに行う。意見の大まかなグルーピングもしておく。

- ・ グループワーク1では、参加者によるファシリテーターは置かず、サブファシリテーターが話し合いを回す。
- ・ 専門家は、他の参加者からの意見を見て、感想を述べる。時間の余裕があればグループ内で意見交換をする。意見交換の発言はサブファシリテーターが付箋に記録し、模造紙の下部に貼っていく。
- ・ グループ内の専門家（3名）の持ち時間が均等になるように、1人あたりの時間を厳守する（3名×5分=15分）。
- ・ グループワーク1の結果は全体共有しない。グループワーク1は、専門家が自分の発表に対する意見を確認し、さらにその場で意見交換をするための時間である。

【グループワーク 2】 (55 分)

- グループワーク 2 では、参加者によるファシリテーターを置かず、サブファシリテーターが話し合いを回す。市民は質問することに、専門家は回答することに集中してもらう。
- 市民の質問に対して専門家が回答する。(40 分)
 - グループ内の市民 3 名で、1 番目に答えてほしい質問を決定する。それに対し、専門家が回答をしていく。
 - 専門家の説明は、サブファシリテーターが青い付箋に記録する。
 - 専門家の説明から派生した質問が出た場合、サブファシリテーターが赤い付箋に記録する。
 - 大元になった質問、および、派生した質問について、市民は、「理解し、納得した」場合は青のシールを、「分からない」「納得できない」場合は赤のシールを貼る。赤いシールが貼られた場合、どこが「分からない」のかを尋ね、派生の質問があれば、それを記録する。
 - 市民全員が青のシールを貼る、または、納得することをあきらめるまで、専門家は各質問に対する説明を続ける。派生した質問も含め、一通りの説明が終わったと市民が判断したら、再び市民が持ち寄った質問の中から、2 番目に答えてほしい質問を決定し、同じ手順を繰り返す。
 - 答えた質問の数は重要ではない。例えば、1 問だけで時間が来てしまっても構わない。
 - サブファシリテーターは、専門家 3 名の発言機会が均等になるように心がける。
- 後半では、模造紙を変え、市民は「専門家の説明を聞いてどう思ったか」、専門家は「話してみてどう思ったか」を付箋に書いて、話し合う。ここでの議論もサブファシリテーターが付箋にキーワードを書き取る。(15 分)
- 全体共有は、2 名の発表者(市民 1 名、専門家 1 名)が行う。前半で解消された疑問、解消されなかった疑問を紹介し、後半で「説明を聞いてどう思ったか」「説明をしていてどう思ったか」を紹介する。

3. その他

- 第 3 回フォーラムは 6 月 28 日(土)に開催する。運営者は 11 時に集合する。

以上